

第3期中心市街地活性化プログラム 令和5年度のフォローアップについて

1 第3期中心市街地活性化プログラムの概要

(1) 目的

第3期中心市街地活性化プログラム（以下、第3期プログラム）は、各種取組の実施主体となる商店街や商工団体、市民団体等と支援機関、行政機関が、長期的に目指すまちの姿とプログラム期間の目標、基本方針などを共有し、中心市街地の機能や魅力の維持・向上に取り組むことを目的とする。

(2) 位置づけと期間

ア 位置づけ

第3期プログラムは、上越市総合計画を上位計画とし、各種まちづくり計画と連携し、中心市街地の活性化に向けた取組を推進するための指針と位置付ける。

イ 期間

第3期プログラムの期間は、令和2年4月から令和7年3月末までの5か年とし、将来像の実現に向けた段階的な取組を推進する。

※計画期間当初からの新型コロナウイルス感染症の影響により、取組が思うようにできない状況が続いたため、令和4年6月に計画期間の終期を令和5年3月末から令和7年3月末に延長した。

(3) 第2期中心市街地活性化プログラムからの主な変更点

- 居住人口の減少や高齢化等に伴い、地域の課題は多様化しており、従来のイベント中心のプログラムの成果が、一過性の「まちの賑わい」創出にとどまることから、課題対応型のプログラムへの転換を図る。
- 高田地区と直江津地区は、長い年月をかけて蓄積された都市、居住、生活、経済等の機能、その歴史・文化の違いから、現在のまちの姿や取り組むべき課題も異なるため、目標等を地区別に定める。
- それぞれの既存ストックをいかし、高田地区は「上越地域の中心都市として再生」、直江津地区は「上越地域の交流・交易の中心」を目指す。

ア 将来像

長期的に目指すまちの姿「将来像」を新たに設定する。

高田地区	直江津地区
暮らしたい、訪れたい、働きたい、城下町・高田	人、モノ、情報が出会い交流する、港町・直江津

イ 5年間の目標

- 高田地区は、都市、居住、経済等の機能や歴史的・文化的資源の有効活用を図る。
- 直江津地区は、集客が期待できる拠点施設の利用者が街なかを楽しむ仕掛けづくりに取り組む。

第2期プログラム	第3期プログラム	
	高田地区	直江津地区
街のにぎわいの向上	つかいたいまち・高田	めぐる！楽しむ！直江津

ウ 目標指標

人口減少、高齢化、車社会などの社会経済情勢とプログラムの実施期間を考慮した上で達成可能なものとし、地区別の5年間の目標に合わせて設定する。

地区	第2期プログラム	第3期プログラム
高田地区	①歩行者交通量の10%増加 【6,923人 → 7,600人】	①高田区居住者の日常の買物割合 【6.3% → 6.3%以上】
	②空き店舗数の減少 【14件 → 11件】	②主要な拠点施設の年間利用者数の増加 【1,128,338人 → 1,129,000人以上】
	③イベント集客人数の増加 【189,288人 → 208,000人】	③街なか居住の促進に向けた機運の醸成 【住民の機運が高まった状態】
直江津地区	①歩行者交通量の10%増加 【2,409人 → 2,650人】	①直江津区居住者の日常の買物割合 【19.2% → 19.2%以上】
	②空き店舗数の減少 【8件 → 6件】	②直江津区非居住者の地区内買物割合 【29.8% → 29.8%以上】
	③イベント集客人数の増加 【205,800人 → 226,100人】	③主要な拠点施設の年間利用者数の増加 【953,404人 → 954,000人以上】

エ 基本方針

5年間の目標と連動し、イベントを中心とした賑わい創出から、産業振興と街なか居住の促進を2本柱として当面の課題に対応する取組を推進するための基本方針に見直す。

第2期プログラム	第3期プログラム	
	高田地区	直江津地区
①商店街の維持・活性化	①商店街や商店の魅力と利便性の向上	①拠点施設の来街者に街なか回遊を促す仕掛けの充実
②地域資源を活かしたまちづくりの推進	②エリア間の連携強化	②街なかの受け入れ環境の整備
③次代につなぐ担い手の育成	③居住環境の改善	③居住環境の改善に向けた検討

オ 長期的課題の明確化

中心市街地活性化に向けた課題のうち「5年間の取組のみでは解決が困難なもの」と、「当面取り組むべきもの」を区分することにより、商店街や商工団体、市民団体等と取組の優先度について、認識を共有する。なお、長期的な課題については、継続的な取組の例示も行う。

【まちの力を維持・強化するため長期的に取り組む事項（高田地区・直江津地区共通）】

- 区内居住人口の維持・増加
- 商業機能の維持・拡充
- 空き地、空き家、空き店舗の解消
- 公共交通の利便性の向上
- まちづくり会社の機能強化

2 目標指標の達成状況

【高田地区】

指標①：令和5年度において、高田区の居住者が「本町3～7丁目、幸町で週2,3回以上買物する割合」を6.3%以上とする（令和元年度調査時と同水準以上）。

達成状況：現況値なし（令和6年度に調査実施予定）

指標②：令和5年度において、主要な拠点施設^{※1}の年間利用者数の合計を1,129千人以上とする。

※1 町家交流館高田小町、高田まちかど交流館、あすとぴあ高田、イレブンプラザ

達成状況：下記の表のとおり

平成30年度	令和5年度
1,128,338人	981,736人（達成率：87.0%）

指標③：「まちなか居住促進に向けた住民の皆さんの機運が高まった状態」を目指す。

達成状況：まちなか居住推進事業事務局（市）において、高田区内の6町内会（仲町6丁目、本町6丁目、本町7丁目、大町5丁目、西城町4丁目、南本町3丁目）及び直江津区内の3町内会（あけぼの、天王町、福永町）に対し、良好な住環境の整備や街の魅力向上を図るため、町家のリフォーム支援や、雁木通りの街なみ形成支援、隣地統合支援をした。

【直江津地区】

指標①：令和5年度において直江津区居住者が「直江津駅前、中央、西本町、五智で週2,3回以上買物する割合」を19.2%以上とする（令和元年度調査時と同水準以上）。

指標②：令和5年度において直江津区に居住していない市民が「直江津駅前、中央、西本町、五智で買物する割合」を29.8%以上とする（令和元年度調査時と同水準以上）。

達成状況：現況値なし（令和6年度に調査実施予定）

指標③：令和5年度において主要な拠点施設^{※2}の年間利用者数の合計を954千人以上とする。

※2 直江津学びの交流館、ライオン像のある館、エルマール専門店街（直江津SC内）

達成状況：下記の表のとおり

平成30年度	令和5年度
953,404人	935,476人（達成率98.1%）

3 現状に対する評価と今後の方向性

- 令和6年3月に、商工団体や市民活動団体（高田地区23団体、直江津地区18団体）を対象に「第3期中心市街地プログラムの取組状況に関するアンケート調査」を実施し、令和5年度の取組状況の確認や各団体が抱えている課題、次年度以降の取組について確認した。
- 第3期プログラムの基本方針に基づいた事業に「取り組んだ」と回答した団体は高田地区で23団体中18団体（78%）、直江津地区で18団体中14団体（78%）であり、大多数の団体が基本方針に基づいた取組を実施した。
- 取組事例としては、高田地区では、季節に合わせたイベントの実施や、直江津地区及び上越妙高駅周辺と連携してプレミアム付商品券を発行し誘客を図ったほか、町家を改修した新規出店が見られた。直江津地区では、近年開催していなかったイベントを復活させ、また、「うみがたり5周年記念イベント」を開催するなどして、にぎわい創出とまちなか回遊の促進に取り組んだ。
- 両地区の空き店舗解消に向けた取組として、商店街の物件情報を取りまとめ、Webサイトをリニューアル公開した。
- こうした取組の一方で、「取り組んでいない」と回答した団体は両地区合計で41団体中9団体（22%）あり、その理由・課題として人材不足（主に関係者の高齢化）や資金不足を挙げている。

- 令和6年度に取り組みたいことや検討していることとしては、能登半島地震などを受け、被害のあった施設の補修や、防災に関する啓発イベントを実施したいという回答があった。
- また、中心市街地活性化に向けた意見として、他の団体やイベントとの連携や、通年観光計画に合わせた取組など、各団体の垣根を越えた事業の実施を求めるものや、若者を対象とした出店支援との回答があった。
- 今後、引き続きプログラムを推進するにあたっては、まちづくり会社や上越商工会議所など関係機関との連携に加えて、取組を実施する団体間の交流や連携を図ることで、互いの取組の補完や相乗効果の発揮を目指していく必要がある。

○参考：アンケート調査の回答から抜粋

・令和5年度の取組

団体名・取組主体	内 容
本町三丁目、四丁目、五丁目商店街振興組合	アーケード、駐車場、音響などの共有施設の改修を行い、来訪者の利便性の向上を図った。
本町345商店街連合会	直江津地区や上越妙高駅周辺と連携したプレミアム付商品券の発行やアーケード下を活用した季節に合わせたイベントを行った。
雁木のまち再生	雁木町家の空き家を新規取得・改修し、オフィスやギャラリー、住宅として提供した。
直江津まちづくり活性化協議会の関係者等で組織する実行委員会	「うみがたりオープン5周年記念イベント」や「なおえつ鉄道まつり」を開催し、にぎわい創出やまちなか回遊の促進を図った。
直江津駅前商店街振興組合 直江津西部商工振興会	休止していた「互の市」及び「安国寺稲荷神社・府中八幡秋祭り協賛イベント」を開催し、活性化につなげた。

・令和6年度に取り組みたいことや検討していること

団体名	内 容
越後高田・雁木ねっとわーく	雁木の写真コンテストの実施や通年ガイドができる体制づくり。
(株)イレブンビル	高田商業高校 Rikka とコラボしたイベントの開催。
直江津駅前商店街振興組合	「互の市」はもちろん、その他事業も含め「地域住民の満足度向上（居住推進・いきがいアップ）や「来街者の街への好感度向上（街のファンづくり）」を目指す。

・中心市街地の活性化に向けた意見・提案

団体名	内 容
越後高田・雁木ねっとわーく NPO 法人高田警女の文化を保存・発信する会	町家を利用する若者の出店に対する支援が必要。大町5丁目を中心に景観整備が進んでおり、若者の店舗が増えているので、この動きを本町6,7丁目まで広げていく。
浄興寺大門通りまちづくり協議会（寺町2丁目町内会）	通年観光計画にあわせ、行政・まちづくり協議会・企業が一体となり、協力体制や連絡を密にし、市街地の活性化に向けて努力してはどうか。
百年商店街実行委員会	イベントを企画する時に集客の相乗効果を目的として、他の団体やイベントと連携することは有効である。